

性的指向・性自認の多様なあり方の理解増進

(一社)LGBT 理解増進会 代表理事 繁内幸治

最近、本当に『LGBT』という言葉をよく聞くようになりました。しかし、必ずしも正しい知識が広がっているという状況にはありません。

また、先駆的に取り組みが進んでいる自治体や企業、学校等も、人権啓発・教育について、LGBT の人権を取り組む上での思想設計に偏りがあるケースもあり、多くのクローゼットの当事者の戸惑いが見受けられます。

差別を禁止しても差別はなくなりません。息苦しきの解消ではなく、差別禁止そのものが目的になるようなことがないようにすることが肝心です。

本日は、LGBTの基礎知識、現状と課題について、誤解を解きつつ、基本的人権とリスクマネジメントの2つの観点から考察し、大学等における取り組み方の方向性について考えます。

LGBT については、基本的には、難しく考え過ぎないことが大事です。性的に

多数者も少数者も当たり前のように存在し、それぞれに尊重されることが最も

大事なことです。

本日のまとめ



- ◎ 性的指向(LGB)、(SO) ⇒ **理解するだけでよい(配慮は不要)**
 - 誰を好きになるかは異性とは限らない
 - 性欲はあるものとは限らない (Aセクシャル)
- ◎ 性同一性/性自認(T)、(GI) ⇒ **理解と配慮が必要です**
 - トイレ、着替え、服装、髪型、部屋割り、呼び名(通称)など
- ◎ **DSDs(性分化疾患)の多数は、LGBTではない**

LGBTを巡るダブルスタンダード



国際的には、差別禁止、同性婚

東京オリンピック
パラリンピック

わが国では、まずは理解増進

世界初のアプローチ

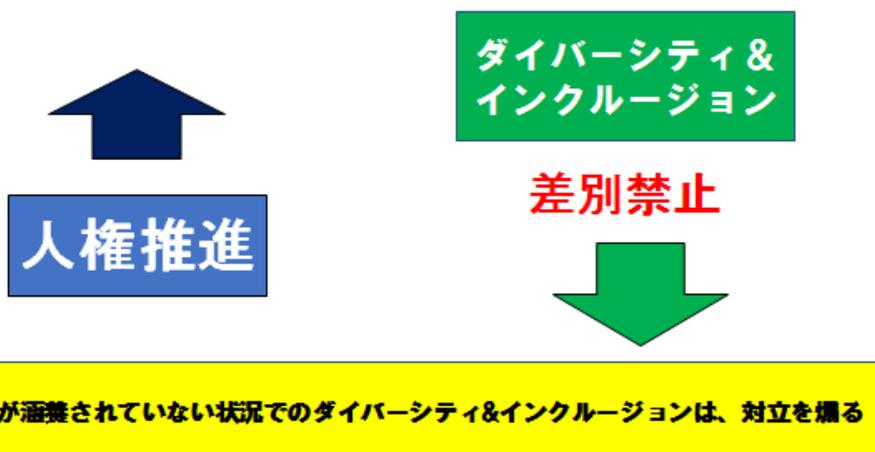
人権は涵養が不可欠

平成 30 年度学生生活にかかる喫緊の課題に関するセミナー

2018/12/14(金)

- 差別を禁止しないとイケないくらい世界の状況は厳しい

人権推進とダイバーシティ&インクルージョン



2018/12/14 (金)

平成 30 年度学生生活にかかる喫緊の課題に関するセミナー

- わが国は人権啓発で理解増進を促し、差別の根本的な解消を図る。

性的マイノリティが不快に思う避けたい言葉



日常的にからかいに使われていることが多い

共通 → * 気持ち悪い(キモイ)、結婚しろ、男か女かはっきりしろ

男性同性愛者に対して	* ホモ、おかま	○ ゲイ
女性同性愛者に対して	* レズ	○ レズビアン (ビアン)
両性愛者に対して	* 両刀使い	○ バイセクシュアル
トランスジェンダーに対して	* ニューハーフ (職業名としては可)	
性別違和	○ トランスジェンダー (トランス)	
インターセックスに対して	* 両性具有	○ 性分化疾患

セクハラ
の可能性!

教職員の言葉は、将来に渡って心の深い傷になります

2018/12/14(金)

平成 30 年度学生生活にかかる喫緊の課題に関するセミナー

制度、設備等を啓発の代わりにしない



- ・ 先ずは、基礎知識の普及がなければ、感情論が噴出し溝を深める。

トイレ・制服も誤ったメッセージとして広がる

パートナーシップ制度が伸びない理由はここにある

『LGBTのために』は、必ず精査が必要

2018/12/14(金)

平成 30 年度学生生活にかかる喫緊の課題に関するセミナー